

平成25年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草中の事故）

事故概要：

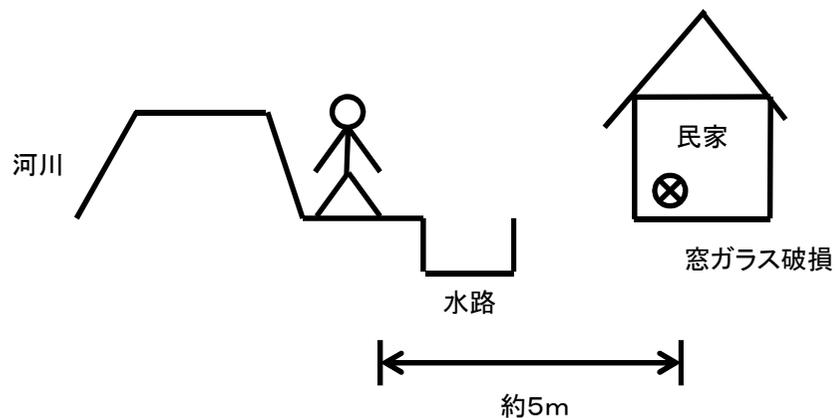
肩掛け式除草機による除草作業において、隣接する民家の窓ガラスにひび割れが生じた。

事故原因：

民家まで5mほど離れていたため、飛び石はないだろうと判断し飛散防止対策を取らなかった。

改善対策：

飛散防止板設置を徹底する。



分類：維持業務、草刈

被害状況：民家の窓ガラスにひび

平成26年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草中の事故）

事故概要：

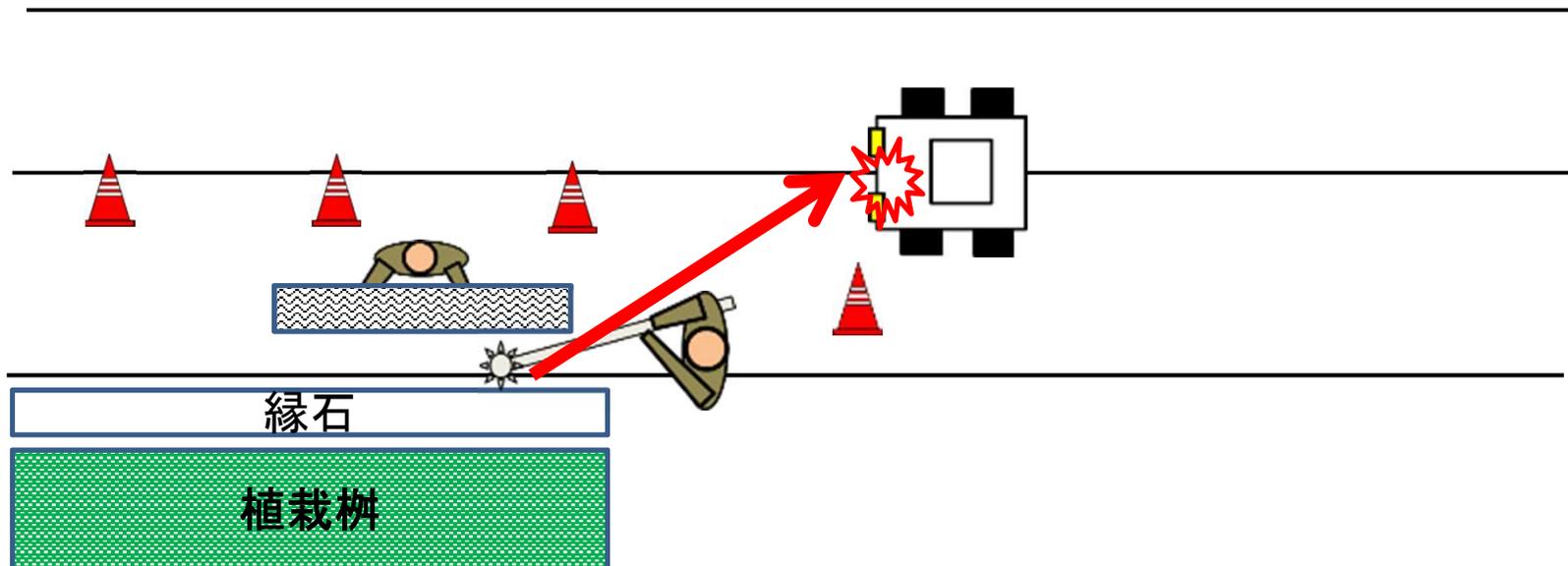
道路舗装の目地部の雑草を草刈機で除草していたところ、道路と逆方向に飛んだ小石が縁石に当たり、道路側に跳ね返って通行車両のフロントガラスに当たり損傷させた

事故原因：

- ・飛び石の跳ね返りが懸念される箇所で、肩掛け式草刈り機で除草作業を行った。
- ・飛び石ガード形状が直線的なものであった

改善対策：

- ・跳ね返りが懸念される箇所では手作業またはトリマー（バリカン式）で施工する
- ・コの字型の防護ネットとする



分類：維持業務、草刈

被害状況：一般車両のフロントガラス損傷

平成26年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草中の事故）

事故概要:

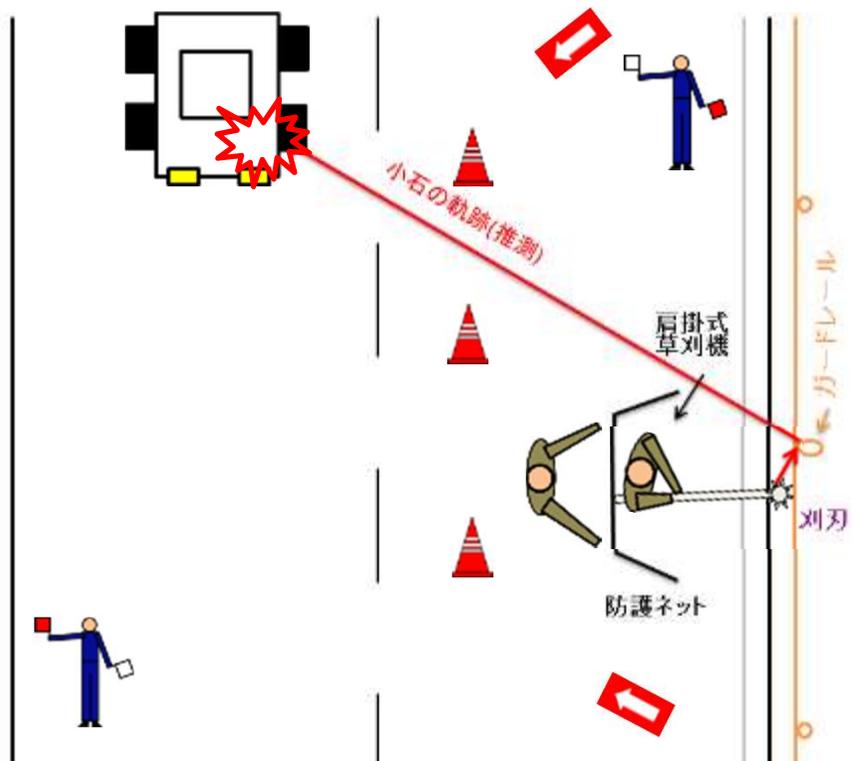
道路舗装とブロック積天端の隙間に生えていた雑草を草刈り機と防護ネットを用いて除草作業していたところ、小石が通行中の一般車両に当たり損傷させた。

事故原因:

- ・路肩堆積物の状態を事前確認し、除去しなかった
- ・小石がガードレールに当たって跳ね返り防護ネットを飛び越えた

改善対策:

- ・路肩堆積物を事前に除去する
- ・飛び石の跳ね返りがない場所か点検する



分類:維持業務、草刈

被害状況:一般車両フロントガラスに20mm程度の傷

平成26年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草中の事故）

事故概要:

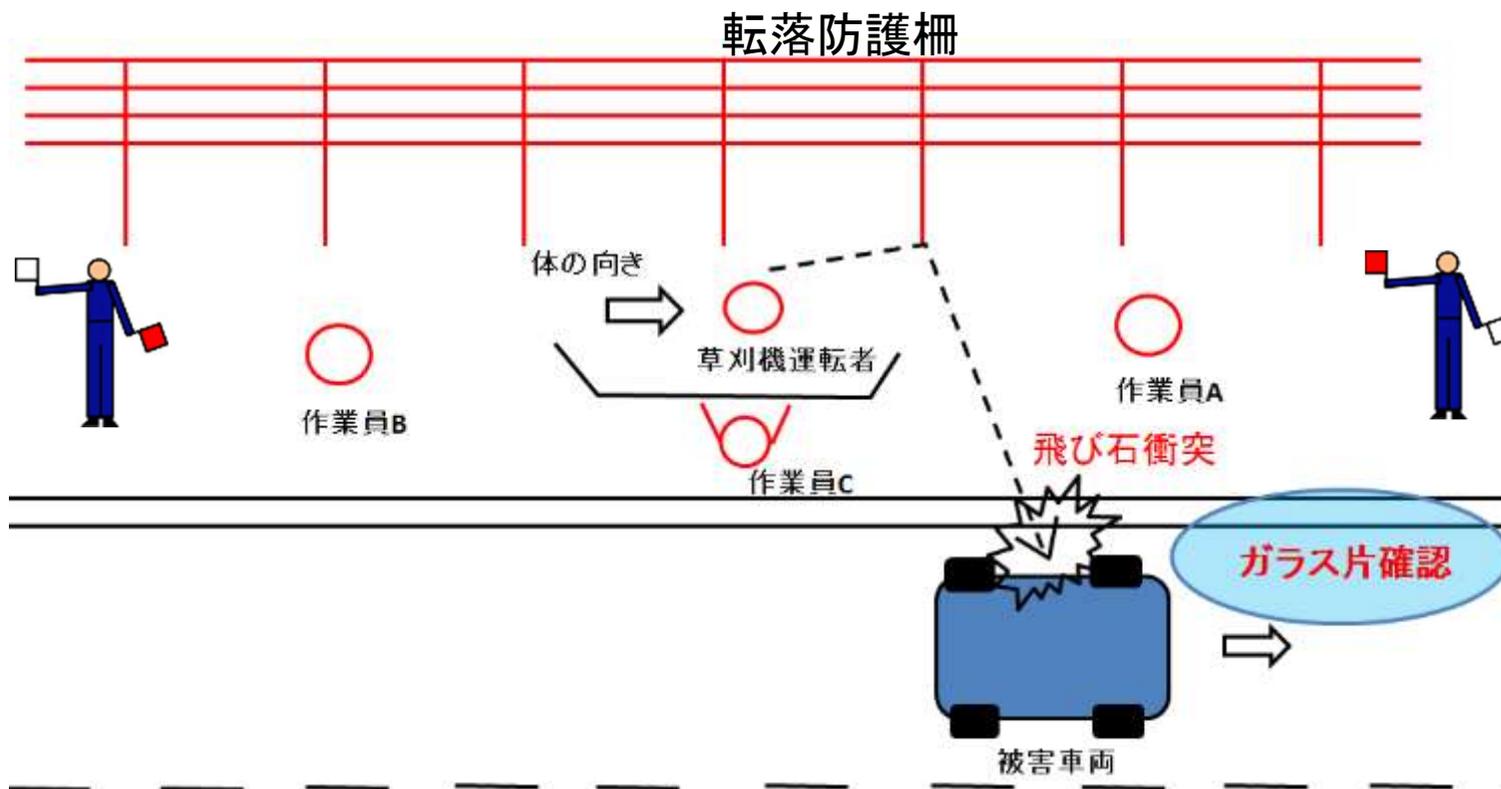
草刈り機と防護ネット(コの字型)を用いて除草作業していたところ、飛び石が通行中の一般車両に当たり損傷させた。

事故原因:

・防護ネットの捕捉範囲が不足していた

改善対策:

・防護ネットの両サイドを延長する



分類:維持業務、草刈

被害状況:一般車両助手席側窓ガラスが破損

平成27年度に建設工事で発生した事故事例（立木処理）

事故概要:

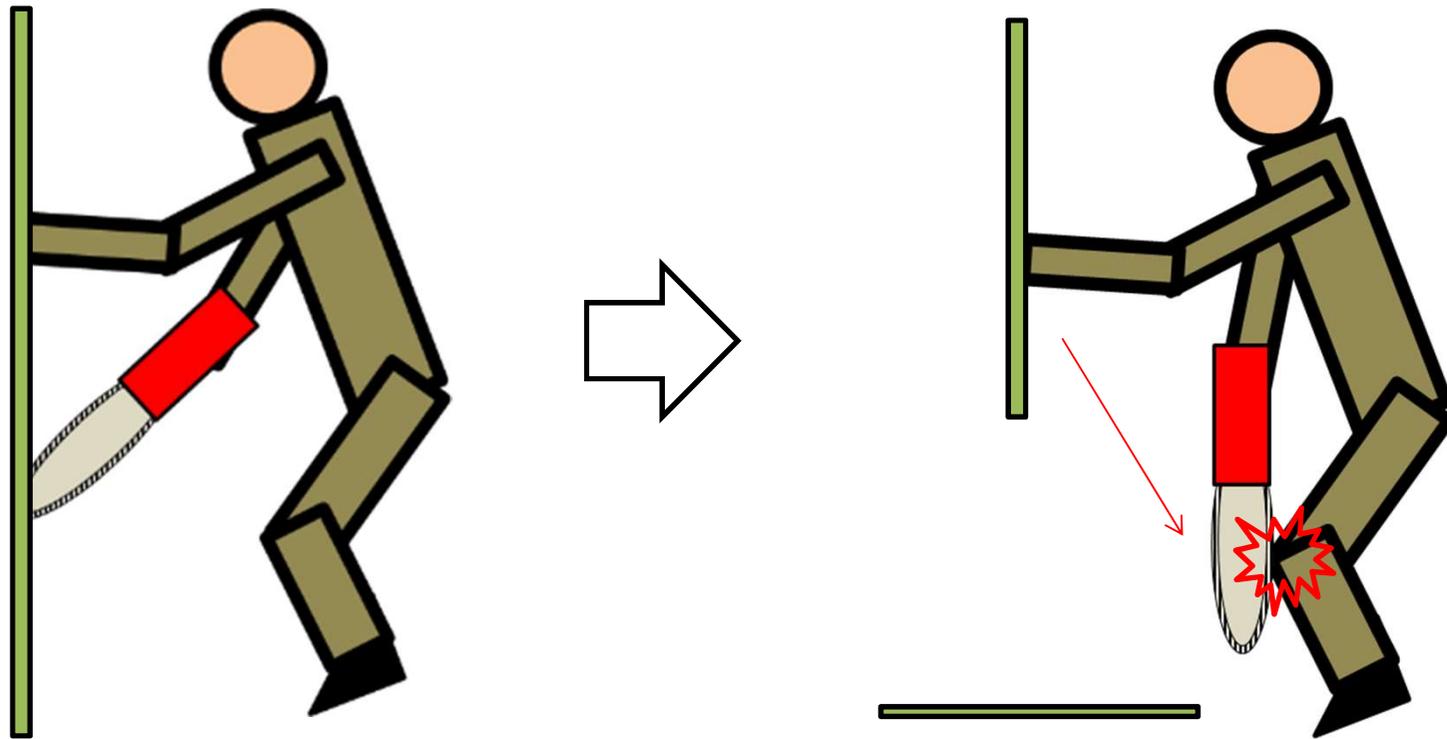
維持業務において草木の伐採を行い、トラックに積込むための玉切り作業中、作業員が伐採した約4.0mの立木を積みやすくするため、チェーンソーにて1.0m程度に切断していたところ、木が切れると同時に刃先が左足膝に当たり負傷した

事故原因:

- ・作業員がチェーンソーを片手で操作していた
- ・形式だけの安全管理になっていた

改善対策:

- ・安全教育の徹底



分類:維持業務、草刈

被害状況:2週間の加療(左膝部挫創)

平成28年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草による事故）

【事故概要】

国道路肩部の草刈り作業中、草刈り機の刈残しを手持ち鎌で刈り払い中に、手を滑らせて左手に鎌が接触し第2指を挫創する事故が発生しました。

【事故原因】

- ・本人の不注意、業務習熟度不足
- ・安全教育の不足

【改善対策】

- ・安全教育の徹底
- ・対切創手袋の使用



分類：維持業務、草刈

被害状況：左第2指挫創(全治1週間)

平成29年度に建設工事で発生した事故事例（除草・草刈による事故）

【事故概要】

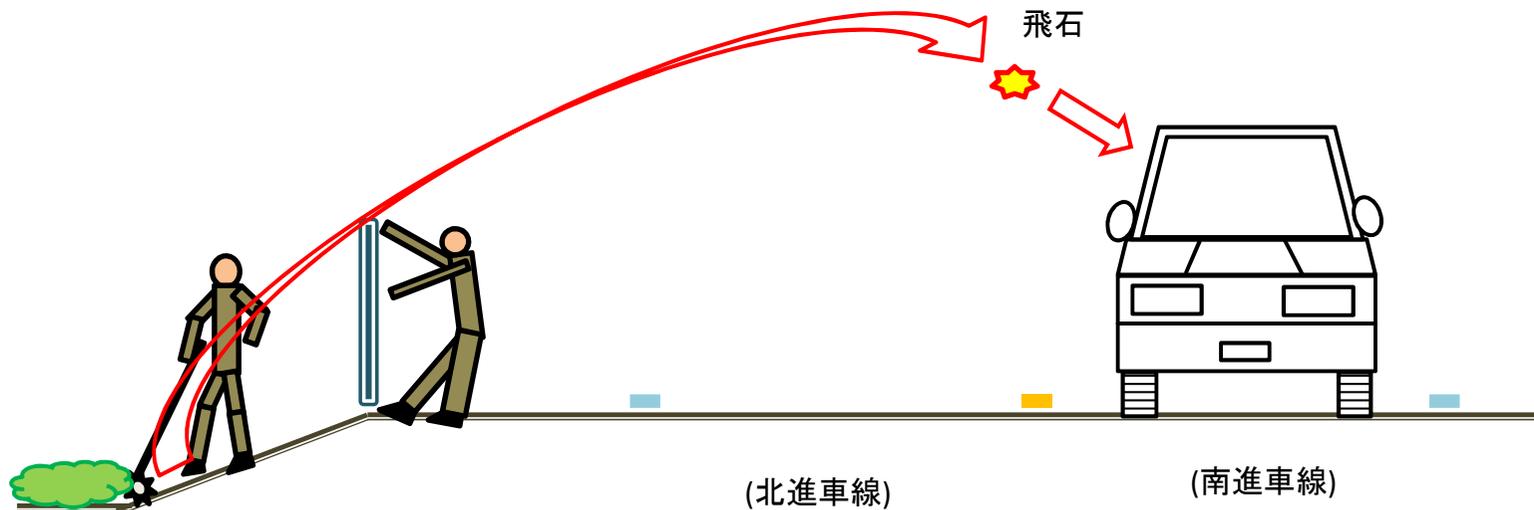
北進車線の路側法面法尻の除草作業を行っていたところ、飛石防護板を飛び越えた飛石により、南進車線を信号待ちで停車していた一般車両の運転席側ウィンドウ2箇所を損傷させた。

【事故原因】

・路側法面法尻を除草する際、車道側に石が飛ぶ方向に草刈機の刃が入ってしまった

【改善対策】

・路側法面法尻では、バリカンタイプの刃を使用する
・刃の回転方向、飛石方向を予測した刈り方や防護板の設置位置をKY時に全員で確認する



分類:維持業務、草刈

被害状況:通行車両1台損傷

平成29年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草による事故）

【事故概要】

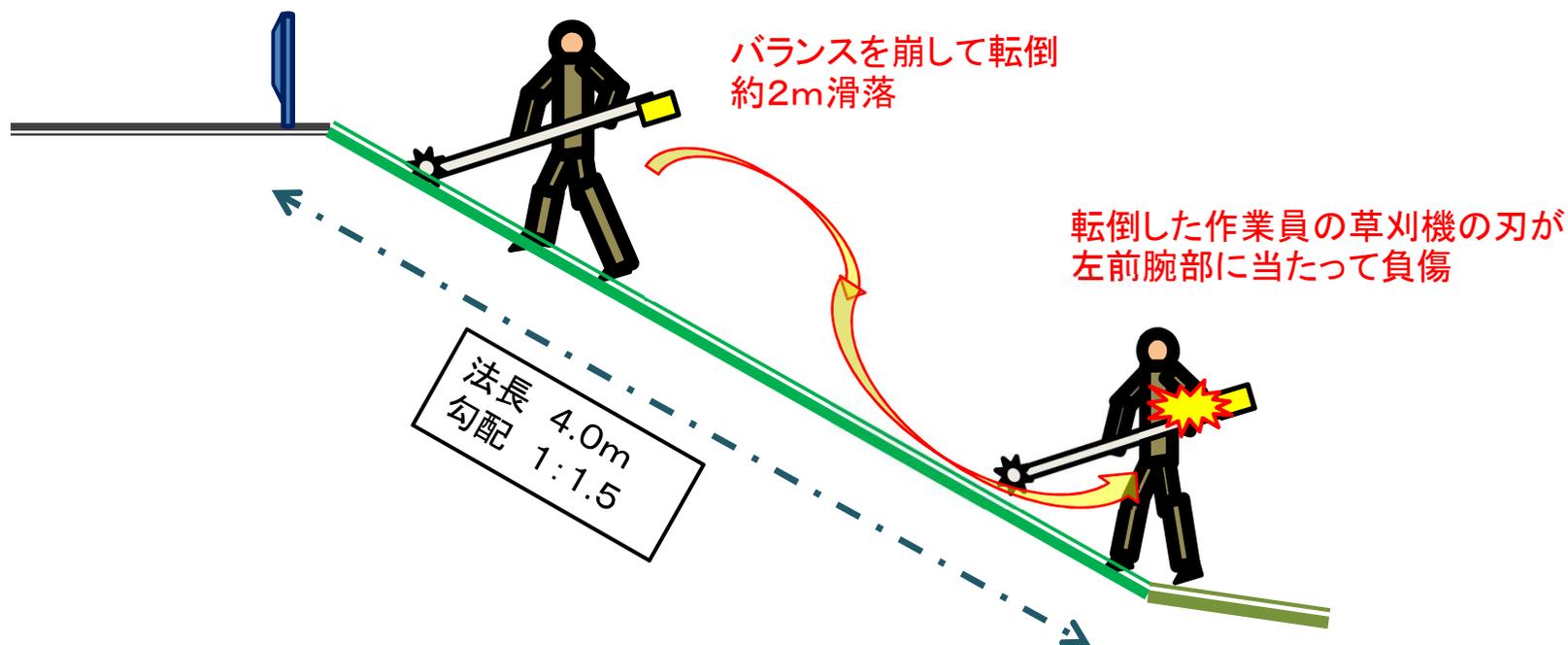
県道路側法面の草刈作業中、上部で草刈を行っていた作業員がバランスを崩して転倒し、草刈機とともに斜面を滑落し、下部で草刈を行っていた作業員の左前腕部に草刈機の刃が当たり負傷した。

【事故原因】

- ・複数名で作業する際の作業員間距離が近く、また作業員も刈払中の危険な作業間隔について深く認識していなかった
- ・現場主任技術者が一時作業現場から離れたために、作業の安全監視を怠った
- ・法面作業に対応した履物を使用していなかった

【改善対策】

- ・刈払作業中は、作業員から5m以内を危険区域とし、この区域内に他の作業員を立ち入らせない監視役を配置する
- ・滑りやすい法面作業では、スパイク付きを原則とする
- ・刈払作業は、刈払機取扱作業安全衛生教育を受けた者とし、修了証により受講の有無を確認する
- ・法面作業では、下方向への草刈作業は行わない



【分類】維持業務、草刈

【被害状況】左橈骨骨幹部骨折(社会復帰まで半年から1年の見込み)

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草による事故）

【事故概要】

河川堤防除草業務委託において、草刈の集積作業時に草刈集草車のゴム履帯が雨上がりの草で横滑りを起こし、法尻に設置してあった東海環状自動車道設置工事の仮設フェンス(2.0m*1.8m)2枚に接触し損傷させた。

【事故原因】

・事故当日は、降雨後で法面上の刈草は濡れて滑りやすい状態であったにもかかわらず、刈草集草車を使用して作業を行った

【改善対策】

・雨上がり等、刈草が濡れている状態では、刈草集草車を使用せず、人力にて集草作業を行う



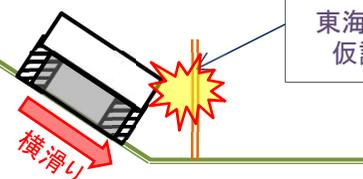
刈草集草車



ゴム履帯



損傷した仮設フェンス



東海環状自動車道設置工事
仮設フェンス(2.0m*1.8m)

【分類】維持業務、草刈

【被害状況】国土交通省の工事の仮設フェンス 2枚損傷

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（工具・資材による事故）

【事故概要】

災害査定のため、被災箇所の草刈りを綿手袋を着用し手鎌で行っていた。鎌がつるに絡まったため、力を入れて引いたところ、予想外に鎌が大きく移動し、草に添えていた自分の左手中指を負傷した

【事故原因】

- ・慎重さを欠いていた
- ・切創防止手袋等を着用していなかった

【改善対策】

- ・安全意識向上の周知徹底
- ・切創の恐れがある作業の場合、切創防止手袋等を着用する



再現状況

【分類】維持業務、草刈

【被害状況】左中指切創（全治8日間）

令和元年度に建設工事で発生した事故事例（除草・草刈による事故）

【事故概要】

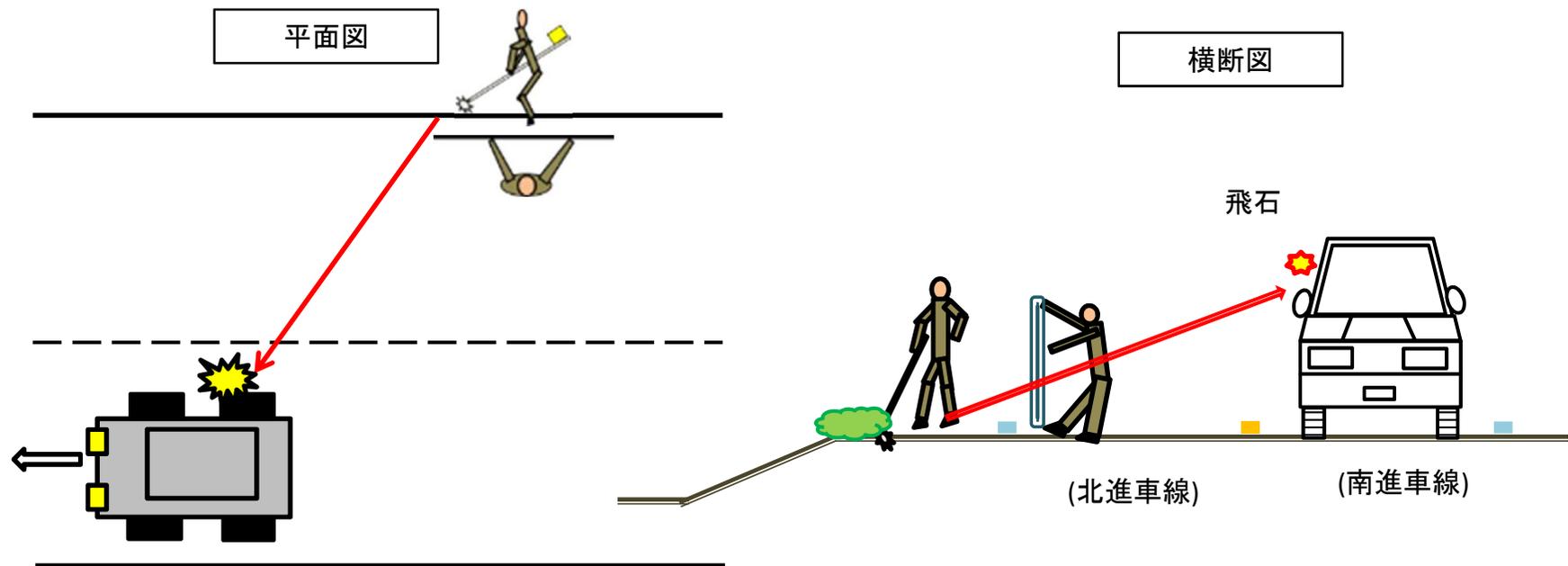
道路維持修繕業務で、北進車線を片側通行規制し、肩掛式草刈機で草刈り作業を行っていたところ、小石が防護ネットの脇から南進斜め方向に跳ね、南進していた自動車後部右側窓ガラスに当たり破損した。

【事故原因】

防護ネットをコの字形状として使用することとしていたが、直線形状で使用されていたうえに、草刈機の刃と防護ネットの離隔についても50cmとしていたところ、離隔1mで作業を行っていたため事故が発生した。

【改善対策】

- ・毎朝のKY活動時に防護ネットをコの字形状での使用を徹底。
- ・草刈機の刃と防護ネットの離隔を50cm程度とし、草刈位置が防護ネットの中央付近となるよう移動する。



分類:維持業務、草刈

被害状況:通行車両1台損傷

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（除草・草刈による事故）

【事故概要】

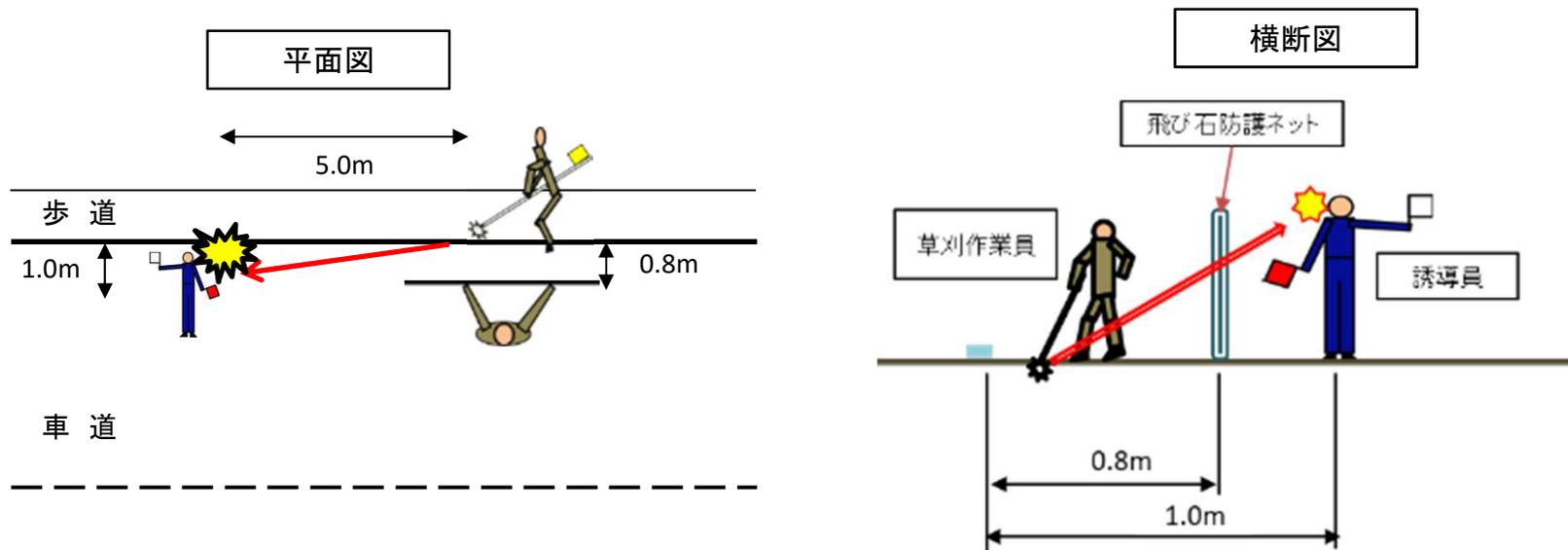
片側通行規制し、肩掛式草刈機で歩車道境界ブロック際の除草作業中、交通誘導員が合図確認のため振り向いたところ、飛び石が左目に当り負傷した。

【事故原因】

- ・飛び石の跳ね返りが懸念される肩掛け式草刈機の作業であったにも拘わらず、望ましいとされるコの字形状の飛び石防護ネットを使用しなかった。(過去にも同様の事故事例有)
- ・刈高5cmの基準以下に刈っていた。

【改善対策】

- ・草刈作業時は確実にコの字型飛び石ガードを使用する。
- ・交通誘導員を含めた全ての現場従事者にゴーグルを貸与する。
- ・現場乗込み時に草刈機、飛び石防護ネット、交通誘導員の位置関係について教育を行う。
- ・作業開始前にはゴミや空き缶等の除去を実施するほか、飛び石防護ネットの設置を確認し、刈高5cmでの作業を再度徹底する。



分類:維持業務、草刈

【被害状況】 業者人身 1名 角膜裂傷、強膜裂、虹彩断裂、虹彩炎、周辺部網膜変性 (通院必要)

令和2年度に建設工事で発生した事故事例（除草・草刈による事故）

【事故概要】

ハンドガイド式草刈機で除草作業中、法面にあったコンクリート塊に同草刈機が乗り上げ、搭乗作業員がバランスを崩してステップから落下した。その際、同草刈機の進行レバーが後進に入ってしまう、キャタピラ近くに落下した作業員の左足に同草刈機が乗り上げ負傷した。

【事故原因】

- ・KY活動で支障物の周知や、支障物の位置を示す目印の設置がなされていない等、支障物に対する安全管理が不十分であった。
- ・安全装置の装着方法が不十分な状態で作業をさせていたため、作業員が草刈機から落下しても草刈機械が止まらない事態が発生した。

【改善対策】

- ・支障物は、除去できるものは作業前に除去し、除去出来ないものには、ポール等の目印を設置する。
- ・資材作業着手前に作業の支障となる障害物を確認するとともに、支障物の存在を、KY活動時に作業員に周知する。
- ・安全装置と作業員を結ぶワイヤーが、ステップから降りた時点で作動する長さになることを確認する。

事故発生箇所
状況



乗り上げたコンクリート塊



分類:維持業務、草刈

【被害状況】 業者人身 1名 左下肢圧挫(加療4週間)

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草事故）

【事故概要】

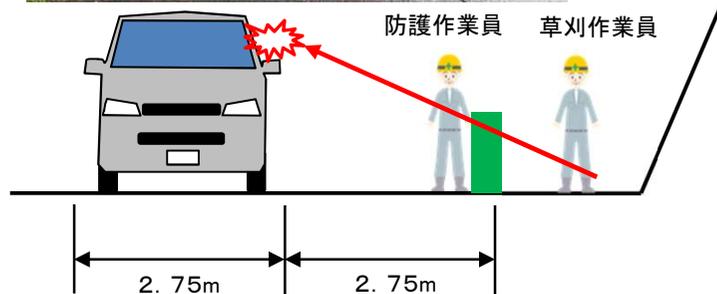
片側通行規制した上で山側を除草作業中、飛び石防護柵(高さ1m×幅2.45m)の袖先へ石が飛び、通過中の一般車両運転席サイドガラスを破損させた。

【事故原因】

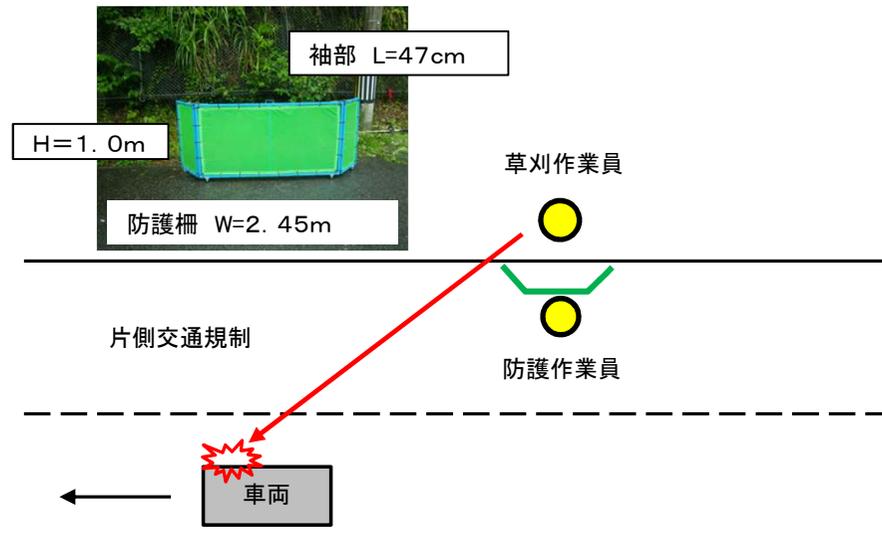
・山際の草刈りのため、地形の凹凸に合わせ草刈り機の動きも複雑になり飛び石防護柵との隙間ができた。

【改善対策】

・草刈機刃先と防護板の離隔をできる限り小さくするよう努める。
・飛び石防護柵の袖の長さを47cmから90cmへ長く加工する。



事故現場状況



【分類】 維持業務 草刈

【被害状況】 公衆物損 一般車両サイドガラス破損

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草事故）

【事故概要】

除草作業において、歩道路側の法面を肩掛式刈払機で除草作業中に小石が飛び、法面下の民間駐車場に駐車されていた車両の後部ガラスに当たり破損した。

【事故原因】

・民地側の現地確認が不十分で、必要な防護措置を行わずに作業を実施したこと。

【改善対策】

・作業の実施前に、民地側への影響等現場確認を十分に行う。
・民地側にも必要に応じて防護措置を行う。

事故現場状況



【分類】 維持業務 草刈

【被害状況】 公衆物損 一般車両リアガラス破損

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草事故）

【事故概要】

堤防除草測量作業中、法尻にプレハブ水路(W600 H900)があり、その下流部にボックスカルバートがあることが確認できたため、刈草がプレハブ水路に覆いかぶさって目視できない状況であった当該箇所もボックスカルバートであると誤認し、足を踏み入れ水路に転倒し右腕を裂傷した。

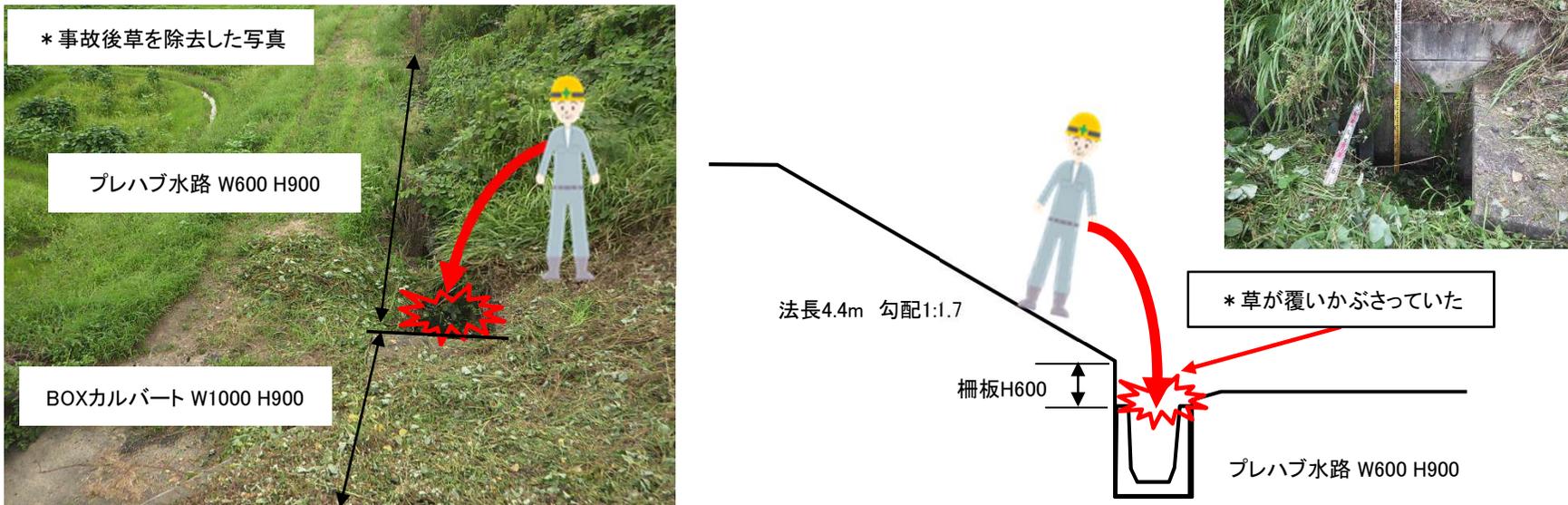
【事故原因】

- ・直接目視できない箇所があるにもかかわらず周辺の情報のみで推測し、現場確認及び安全認識が充分でなかったこと。
- ・事前に水路の存在を認識していたにもかかわらず、現地に危険箇所の表示を行っておらず、現場確認及び安全認識が充分でなかったこと。

【改善対策】

- ・目視できない不明な箇所が無いように作業手順を確認する。
- ・事前に作業箇所の危険箇所マップを作成し、作業員全員に周知徹底を行い、危険箇所には注意喚起看板等で明示し注意を促す。

事故現場状況



【分類】 維持業務 草刈

【被害状況】 業者人身 53歳 右前腕挫裂創

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（草刈・除草事故）

【事故概要】

片側交通規制にて縁石脇の草刈り中、通行中の普通自動車に飛び石があたり、フロントガラスを損傷させた。

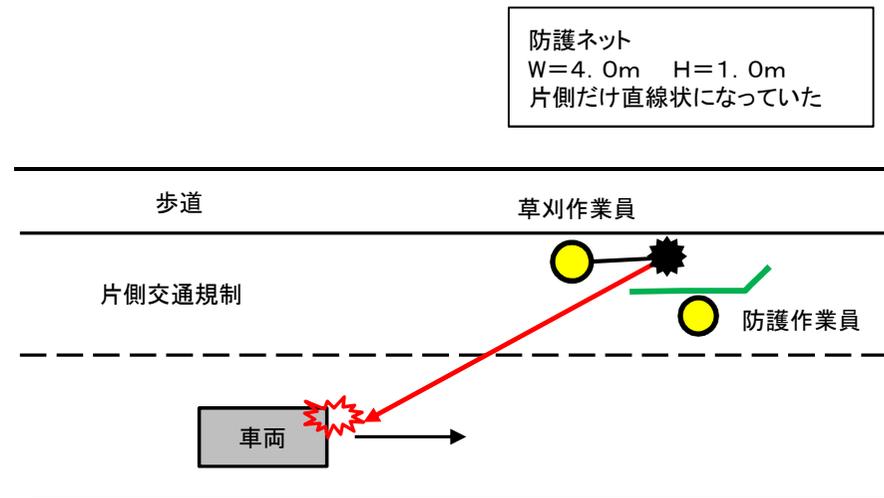
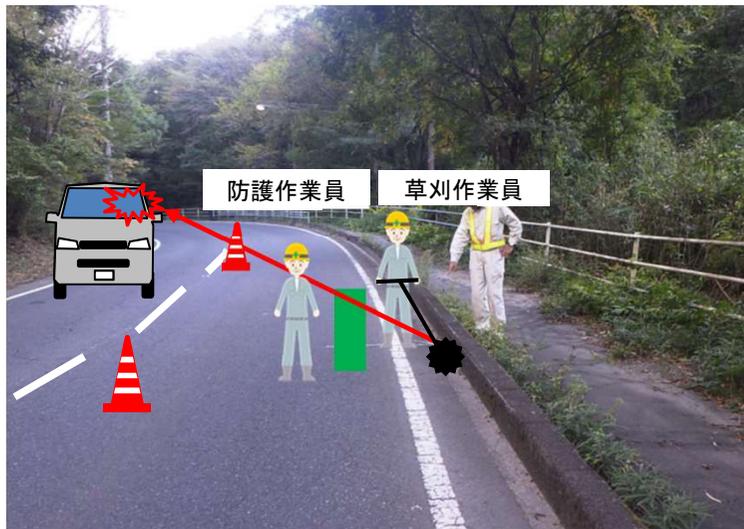
【事故原因】

- ・防護ネットをコの字型で作業することとなっていたが、移動時に片側だけ直線状になっていたこと。
- ・草刈り機の刈刃と防護ネットの距離が離れすぎていたこと。

【改善対策】

- ・防護ネットをコの字型で使用することを徹底する。
- ・防護ネットをコの字型が維持できる固定式構造とする。
- ・防護ネットと草刈り機が離れすぎないように徹底する。

事故現場状況



【分類】 維持業務 草刈

【被害状況】 公衆物損 一般車両フロントガラス破損